

2013年度の放射線検査室のスタッフは、診療放射線技師5名であった。

主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。

1. 2013年度の活動

(1) 業務改善について

前年度の64列CTの導入に伴い造影剤使用法についての検討を行った。検査部位、検査目的および患者情報とともに、造影剤を適正に使用することができた。また使用前に造影剤の種類、使用量、注入条件を技師複数名で確認することで、安全な検査をこころがけた。その結果、最適な画像を提供できるようになった。

(2) 業務範囲の拡大

乳腺超音波検査の技術習得に向けて、当院検査室の指導の下で研修を開始した。一人でも多く技術を習得し、臨床の現場で力を発揮できるよう努力していく。

(3) 健診業務

胸部エックス線撮影、胃透視、マンモグラフィーを主に担当しているが、胃透視、マンモグラフィーに関しては、すべて技師による1次チェックを行い、関連部署とのカンファレンスも滞りなく実施できた。検査の予約も受診者の要望に沿った対応をすることができた。

今後も関連部署と連携し円滑な運用ができるよう協力していきたい。

(4) 協働促進

当院の2013年度のキーワードでもある「協働」、放射線検査室でも何ができるのか？を考え、まずは従来から行っている患者搬送の実施強化を行った。地味な行動ではあるが、関連部署の要望に可能な限り応えることができた。

これからも協働の範囲を広げるべく、協力できる体制を維持、強化していきたい。

2. 今後の展望

(1) 電子カルテ更新

6月に電子カルテの更新を控えている。業務が滞らないよう更新をスムーズに行い、業務の効率化、患者満足度、院内他部署へのサービスの向上に役立てていきたい。

(2) 当直体制への移行

現在勤務時間外の急患等に対しては、待機にて対応しているが、次年度から日直および当直体制へと移行する。これによって救急医療により深く関わり、知識や技術の向上を図っていかれたらと思う。

(3) 放射線機器について

全体的に機器の老朽化が見られるため、必要に応じ、計画的に機器の更新を行い、地域医療に貢献できればと考える。

(4) 人材活用

2014年5月から診療放射線技師1名が加わる予定である。乳腺領域の超音波検査等への業務範囲の拡大を目指して、本格的な研修が行えるような業務ローテーションを構築し、業務体制を強化していきたい。